



11レポート No.31



補助犬サポート有志の会 with MASTGOLF 代表 鈴木 美枝子

赤ちゃんの時からずっと犬と一緒に生活していました。常に優しく私の気持ちに寄り添ってくれて……。人の気持ちを察するのが得意な犬は多く、非言語コミュニケーションができるところが素晴らしいと思います。そんな優しい犬とのスキンシップを通して、障害者の人達を楽しい生活に導きたいと考えました。現在は、いわゆるブラインドゴルフ、神奈川県視覚障害者ゴルフアーズ協会(KBGA)のサポート支援も行っています。



会のサイトはこちらから



横浜スタジアム
内野車椅子シート

補助犬ユーザーが 生きやすい世の中を目指して

私たちは、身体の不自由な人の生活を支える補助犬の理解を深める活動を行っています。きっかけは、盲導犬になる候補の子犬を成犬まで預かるボランティア「パピーウォーカー」を始めたことでした。私が育てた2頭が盲導犬になり、その盲導犬のユーザーさんから、日々の生活に大変辛い事実がある事を聞きました。そして、ユーザーさんのためにも、育てたパピーのためにも、盲導犬の受け入れ拒否を改善していきたい！と考え、啓発団体の立ち上げに至りました。

会の主な活動内容は、補助犬ユーザーさんのサポートのため『身体障害者補助犬法』をお知らせする啓発活動と補助犬の対応の仕方のご紹介です。

例えば……

盲導犬を連れて歩いているユーザーさんは、一旦動きが止まるとそれまでの情報が途切れてしまい、次に動き出すのが難しくなります。ですからハーネスをつけた仕事上の盲導犬には勝手に触らないこと。また、不特定多数の人が利用する施設は補助犬の受け入れが義務づけられていることなど。案外知らない方も多いのです。

鎌倉でも身体障害者補助犬法冊子を配り、入店拒否の現状や補助犬の理解を求める運動を行いました。その際は、小町通り商店街の会長様が同行もしてくださいました。各地でのこのような活動が実を結び、最近では、横浜スタジアムにも補助犬シートが新たに設置されました！

現在、このような啓発活動にご理解のある補助犬ユーザーさんのボランティアを募集しています。一緒に活動してみませんか。



補助犬入店シート



横浜スタジアム車椅子シート
で過ごす盲導犬



ウィングBAYSIDE

助成金



いつの時代も団体の活動資金を集めるのには苦勞がつきもの。協賛金、活動を応援してくれる人を増やすファンづくりやクラウドファンディングなど、様々な事例を経験談としてご紹介いたします。今回は昨年かまくらファンドを獲得した「NPO法人シュピーレン」です。



NPO法人 シュピーレン

主に障がいのある方、地域の青少年から高齢者に対して、音楽をコミュニケーションツールとし、その喜びを分かち合い、笑顔で心豊かな人生を歩んでいくための音楽・芸術支援団体です

Q: かまくらファンドを申請した理由を聞かせてください。

A: ほとんどの福祉施設では予算が非常に限られており、参加者の皆さんが使う楽器は私達音楽ファシリテーターが購入していました。コンサートをご希望でも、施設にピアノがない又は壊れていると個人での購入は厳しく、届けたいプログラムも組めず困っていたのと、参加者が増えた音楽ワークショップ用の楽器の補充もしたく思い切って申請しました。



鎌倉武道館でのクリスマスコンサート

Q: 申請した金額は？

A: 10万円を申請し満額頂けました！

Q: ファンド金の使い道を教えてください。

A: 各施設でコンサートや活動で使用するため

- ・移動可能な88鍵の電子ピアノセット
- ・タンバリンは偶然寄付があり予定の半数で済んだためボンゴなどのパーカッション楽器です。



絵と音で楽しむ歌紙芝居

また、障がいのある方が曲の内容を理解しやすいよう視覚的にアプローチするためのオリジナル紙芝居製作、パペットなどの諸経費。セールを駆使して各経費を抑え、15kg程のピアノ移動のためのカートやコンサートを彩るクリスマスツリーも購入し各施設でとても喜ばれました！

Q: 実際にご活用されていますか？

A: それぞれの楽器は福祉施設や鎌倉武道館で行ったクリスマスコンサート、定期的な音楽ワークショップシュピーレンの活動、季節の音楽イベント活動に活躍し、皆さんはじける笑顔で満喫されています！



夏のイベント盆踊りシュピーレン

こちらNPO相談室 Cho-co-tto



NPOセンターに寄せられる質問や相談をちよこつと解説するコーナーです。

Q: 「認定」NPO法人になると何がいいの？

～「認定」NPO法人の「認定」って？～



A: それはズバリ! 認定NPO法人になると税制上の優遇措置があります。

認定NPO法人は、寄附を促すことによりNPO法人の活動を支援する税制上の優遇措置として設けられた制度で、次のメリットがあります。

- 1.個人が寄附⇒寄附金控除を受けられる
- 2.法人が寄附⇒損金に算入できる金額が拡大
- 3.相続人が相続財産を寄附⇒寄附した相続財産は相続税が非課税

さらに!

- 4.認定NPO法人自身が法人税法上の収益事業を行った場合⇒「みなし寄附金制度」による減税措置の利用が可能となる

もちろん、認定を受けるためには一定の要件を満たさなければなりません。特に、PST（パブリックサポートテスト）という、市民から支持されていることを寄附金受領金額などによって示さなければならない要件が難しいとされています。

ところが、神奈川県には（あまり知られていませんが）このPSTを寄附金以外の「100人の署名」などの方法で示し、認定要件をクリアする『条例個別指定制度』があります。任意団体→NPO法人格取得→神奈川県指定→認定という市民活動団体の成長ルートが用意されているのです。（A.N.）



このあたりのお話について

10/24 (木) 18時

から鎌倉NPOセンターにおいて開催する市民活動団体のためのマネジメント講座でお話しする予定ですので、ぜひお越しください。

今号の社会課題は「情報格差：デジタルデバインド」。インターネットやパソコンのような情報通信技術を使える人と使えない人の間に生まれる差、つまり情報格差です。

デジタルデバインド=情報格差

デジタルデバインド・・・「カタカナで書かれるともうお手上げ」そんなお嘆きも聞こえてきそう。インターネット等の情報通信技術を利用できる人と利用できない人の間にもたらされる格差のことを言います。情報格差とも言われますね。情報格差には、地域間や世代間などでも種類がさまざまにあるようですが、特に高齢者層に与える影響としては、

- ・社会的な孤立を生み出す
- ・災害や緊急時の避難の遅れ などがよく言われています。

家族や友人とのコミュニケーションの道具として、また、企業でもデジタル機器を使える環境が一般的になっており、デジタル技術を使いこなせない高齢者にとっては社会とのつながりが希薄になる恐れがあります。少子高齢化が進む日本社会で、独居老人の増加は深刻な問題です。そのような状況下でもオンラインのビデオ通話やソーシャルメディアなどを使って友人や家族とつながることで、孤独化を防いでいる例もあり、デジタルデバインドに陥った高齢者を救うということは早急に取り組むべき課題ともいえます。

NPOセンターで長年パソコン教室を開催しているパソコン講師の藤原久江さんにお話をうかがいました。



コロナ禍では「ZOOM講座」最近では「役立つエクセル講座」も



生徒に寄り添った指導が人気 藤原久江先生

2006年からスタートし、15～6年続いた鎌倉市市民活動センター運営会議パソコン教室ですが、コロナ禍で生徒募集が出来なくなり一旦中断しました。現在は単発での「エクセル講座」を鎌倉センターで行っています。

デジタル難民といえば、コロナ禍でまず直面したことがあります。スマホからQRコードを読み取りワクチン接種の予約するという切羽詰まったことになり多くの方のサポートをさせていただきました。

それをきっかけにパソコンではなく、持ち歩くのに便利なスマホを日常生活にうまく活用して頂けるようにと2023年7月から「スマホの上手な使い方」講座を大船センターで定期的に開催しています。Wi-Fiの設定から、写真撮影、LINEの使い方、お買い物、他、個人的な質問にもお応えしております。もし、災害や緊急なことが起きた時に落ち着いてスマホが利用できますように、日頃から触れていただきお役に立てればと思っております。

(藤原 久江)

NPOセンター登録団体の開催事例をいくつかピックアップしました。

・ The 和み Space Connected

「スマホの使い方サロン」
スマホを自信を持って使えるシニアの育成事業により、核家族化や独居でも孤立せず、安心の暮らしで心身のウェルビーイングをサポートしています。

・ 学生団体ニューコロンプス

市高齢者いきいき課との協働事業で「デイ銭湯」でのスマホ教室の開催
→銭湯を活用した多世代交流。

・ 鎌倉シチズンネット

市内老人福祉センターでスマホ教室。
個人レッスン（スマホ、資料作成、Zoom、就活支援など）も実施中。



スマホで写真を撮ってみよう！NPOセンター大船

他にも、西鎌みんなの家、七里ガ浜自治会、大船町内会、地区社会福祉協議会など盛んに開催されています。ぜひ、足を運んでみてください。便利で楽しい新しい世界が開けるかもしれません！



最近では、自治会や地域のコミュニティスペースで開催されるスマホ講座も増えてきました。気軽さや一緒に学んだ後の語らいなどが集まる魅力の一つのこと。スマホ技術習得だけでなく副次効果が嬉しいですね。

新規登録団体のご紹介（6月～8月）

セブンビーチプロジェクト

地域住民や商店、地域コミュニティのより良い関係構築を目指し、また、環境変化による災害への備えも目的として、七里ガ浜を中心に毎月第四土曜日にタウン&ビーチクリーン活動を行っています。どなたでもお気軽にご参加ください。

古文書を学ぶ会

「玉縄歴史の会」の中で古文書を学ぶ活動をしてきました。このたび独立した会となり、引き続き郷土の古文書を解説し勉強しています。古文書に興味のある人を募集しています。

森と海のように 湘南・鎌倉でんでんむし

幼児期は生涯にわたる人間形成の基礎を培う大切な時期です。自然の中でおもいっきり遊び、素晴らしい自然の中で、素敵な仲間と、泣いたり、笑ったり、ケンカしたり……、のびのびしたときを過ごせるように、子どもの世界を大切に大人はサイレント保育を目指しています。

<https://aozoradenden.wixsite.com/jishuhoiku>

NPO法人 この子キャリア応援団

・学校に馴染めるか不安
・担任の先生にうちの子の特性が伝わらない
・園から学校への引き継ぎってちゃんとされているのかな？など、子育ての悩みをダイレクトに受け、一緒に解決策を考えて行動していきます。

<https://www.cnc-career.jp/>

アマヤドリ

既存の制度では社会的な支援が届かず、孤立・困窮している18歳以上の若者をサポートすることを目的として活動しています。生きていくために、本当は望んでいた学業や職業などの選択をあきらめざるを得なかった若者が、自分で生き方を選べるように。すべての若者が自分の望む未来に向けて踏み出せるように。制度の枠を超えてサポートするため、スタッフ一丸となって活動しています。

<https://www.amayadori-official.net/>

登録団体数：336団体 令和6年8月31日現在

※登録団体の登録内容（連絡先・代表者・活動内容等）に変更があった場合は、速やかにお知らせください。



登録団体懇話会のお知らせ

今回の懇話会のテーマは「人と地域がつながる」

鎌倉市・社会福祉協議会・きしろ社会事業会・市民活動センター運営会議の4者による協働プロジェクト「人と地域がつながるプラットフォームかまくら（通称ここま）」の考え方やビジョンを皆さんと共有する時間を設けたいと思います。皆さんと考え、対話し、交流できる場としてどうぞ、お気軽にご参加ください。お子さま連れの参加ももちろんOK。

9月29日（日）※受付は13：45から
NPOセンター大船（JR大船駅西口徒歩3分）

- ・懇話会 14：00～15：00
（新規登録団体の紹介コーナー枠あり！）
- ・交流会 15：20～16：50
（懇話会に引き続きワールドカフェスタイルで）

登録団体の交流の場。懇話会の開催です！
団体同士の協働や連携など、思いがけない相乗効果を期待！

市民活動団体のためのマネジメント講座 「自立したNPOになるために！指定・認定制度って何？」

寄附金獲得や助成金申請などでチカラを発揮する『NPO⇒法人格取得⇒指定⇒認定』のコースがあることを、NPO活動のマネジメント知識として、ぜひ押さえておきましょう！
団体の資金調達のための新たな道をご紹介します。

10月24日（木）18:00～19:30
NPOセンター鎌倉2階会議室

講師：中川麻希子
認定NPO法人 鎌倉市市民活動センター運営会議 副理事

神奈川県NPO協働推進課在職時に県指定NPO法人制度や法人認証を担当



NPOセンター鎌倉：〒248-0012 鎌倉市御成町18-10 鎌倉市役所 第2分庁舎
TEL/FAX：0467-60-4555

NPOセンター大船：〒247-0061 鎌倉市台1-2-25（たまなわ交流センター1階）
TEL/FAX：0467-42-0345

4月からNPOセンターのメールアドレスは一つに。鎌倉も大船も同じメールアドレス rep@npo-kamakura.com